

千葉県市川健康福祉センター発 いちうら感染症情報

「2024 - 3月①」 定期号

2024年3月14日配信

平素より地域の感染症対策にご協力いただきありがとうございます。

- ・医療機関向け情報には(医)を、一般施設向け情報には(一)をつけています。
- ・2024年第8週：2月19日～2月25日、第9週：2月26日～3月3日、
第10週：3月4日～10日

ご覧いただく際に参考にしていただければ幸いです。

原則毎月第2・4木曜日に配信し、新たな通知や感染症情報等がある場合、随時臨時号を配信いたします。

1



全数報告感染症情報



※市川保健所管内の直近5週分の感染症発生動向状況は、メールの添付資料（「2024.6週～10週」.pdf）をご確認ください。

●管内の状況（報告のあった疾患のみ掲載しています）

2024年第8週・第9週・第10週

二類感染症	3週分	累計（年）
結核	6	21

四類感染症	3週分	累計（年）
E型肝炎	1	2

五類感染症	3週分	累計（年）
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	4
水痘(入院例)	1	1
梅毒	2	10
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	3

2



発生動向トピックス

●大阪府及び東京都において麻しん患者について報道発表がありました。解熱後、再びの高熱と発疹は要注意！！

3月12日付けで「いちうら感染症臨時号」として配信しましたが、大阪府及び東京都にて麻しんの患者について報道発表がありました。2例は、海外渡航歴があり同じ航空機に同乗していたことが報告されています。詳細の内容につきましては、下記のホームページをご覧ください。

大阪府：麻しんに関する注意情報（令和6年3月1日付け）

<https://www.pref.osaka.lg.jp/hodo/index.php?site=fumin&pageId=50650>

東京都：麻しん（はしか）患者の発生について（令和6年3月11日付け）

<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2024/03/12/07.html>

さらに、都内において5歳未満の未就学児の麻疹患者の発生がありました。患者の行動歴を確認したところ、海外への渡航歴があったことが判明しています。詳細の内容につきましては、下記のホームページをご覧ください。

東京都保健医療局：麻疹（はしか）患者の発生について(令和6年3月12日付け)

<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/hodo/saishin/pressboueki240312.html>

3月・4月は、入園・入学・入社等で国内外を問わず人の往来が増加する時期です。また、麻疹は世界で流行している感染症であり、海外旅行等で滞在中に感染する可能性があります。

感染対策は、ワクチン接種が有効です。この機会に、医療機関や施設、学校や保育園等におかれましては、再度「千葉県麻疹対応マニュアル」を確認いただき、診察時のトリアージ方法や職員の抗体値や予防接種について確認をお願いします。また、幼稚園、保育園等予防接種2期対象者が在籍する施設におかれましては、注意喚起に加えて、早めの接種についても勧奨してください。

症状 38℃前後の発熱、咳、鼻水、くしゃみ、結膜充血などが約2～4日続き、解熱後再び39℃以上の高熱と発疹が出現。

感染経路 感染者が咳やくしゃみをしたときに急速に拡散する空気中の呼吸器飛沫を介した感染。空気中や汚染された物体の表面で、最大2時間まで感染力を維持するため、空気感染や接触感染。

感染可能期間 症状出現の1日前から解熱後3日間まで。発熱がみられなかった場合は、発疹出現後5日間まで。

潜伏期間 約10日～12日間（21日間程度の場合もあります。）

予防接種 定期接種1期：生後12か月-24か月

2期：小学校就学前1年間（5歳-7歳未満）

※上記以外では任意接種



最近の海外における麻疹の流行の報告に伴い、厚労省より2月26日付けで「麻疹の国内伝播事例の増加に伴う注意喚起について（再周知）」の事務連絡がありました。麻疹の疑い事例発生時には、管轄の保健所へご報告をお願いいたします。

詳細の内容につきましては、下記のホームページをご覧ください。

厚労省：麻疹の国内外での増加に伴う注意喚起について(再周知) <https://www.mhlw.go.jp/content/001214829.pdf>

【引用・参考】

厚労省：麻疹について

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/index.html

学校における麻疹対策ガイドライン <https://www.niid.go.jp/niid/ja/guidelines.html>

こどもとおとなのワクチンサイト：年齢でみる不足している可能性があるワクチン（キャッチアップスケジュール）

https://www.vaccine4all.jp/topics_I-detail.php?tid=48

こどもとおとなのワクチンサイト：麻疹風疹混合（MR）ワクチン https://www.vaccine4all.jp/topics_I-detail.php?tid=11

●県内の小児科定点医療機関より水痘の報告が多くなっています。

2024年第9週に定点当たりの報告数は、0.18（人）でした。また、同週に県内医療機関から水痘（入院例）の届出が1例あり、感染経路は母国（アジア地域）帰国中と推定されています。



水痘は、水痘帯状疱疹ウイルスによって起こる感染症です。症状は、成人では発疹出現前に1～2日の発熱と全身倦怠感を伴うことがありますが、子どもでは通常発疹が初発症状です。発疹は全身性で掻痒を伴い、紅斑、丘疹を経て短時間で水疱となり、痂皮化します。

感染対策は、予防接種が有効です。特に、小児は1歳から3歳までに2回の定期接種が有効です。また、患者との接触後72時間以内に水痘ワクチンを緊急接種することにより発症の防止、症状の軽症化が期待できます。

【引用・参考】

国立感染研:水痘とは <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/418-varicella-intro.html>



●管内で劇症型溶血性レンサ球菌感染症の発生届が多くなっています。

管内の医療機関より届出のあった劇症型溶血性レンサ球菌は、2023年累計で4件でしたが、2024年は1週～10週までで4件の届出がありました。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、突発的に発症し、急速に多臓器不全に進行するβ溶血を示すレンサ球菌による敗血症性ショックを引き起こす感染症です。主な病原体はA群溶血性レンサ球菌であり、一般的な疾患は咽頭炎です。発症者の多くは小児ですが、劇症型溶血性レンサ球菌感染症を発症するのは子供から大人まで広範囲の年齢層であり、特に30歳以上の大人に多いのがひとつの特徴です。

感染対策は、手指衛生やマスクの着用等の一般的な感染対策、有症状時の早期受診、早期診断・治療が大切です。

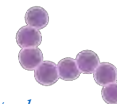
劇症型溶血性レンサ球菌感染症となる機序は不明であることから、国内での発症状況、疫学的特徴を把握するため、2024年1月17日付け厚労省通知にて、地方衛生研究所で菌株の解析を実施、もしくは必要に応じて国立感染症研究所等に分離株を送付するよう依頼がありました。医療機関の皆様には、ご協力をお願いいたします。

【引用・参考】

国立感染研:劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/341-stss.html>

国立感染研:A群溶血性レンサ球菌による劇症型溶血性レンサ球菌感染症の50歳未満を中心とした報告数の増加について(2023年12月17日現在)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/group-a-streptococcus-m/group-a-streptococcus-iasrs/12461-528p01.html>



3



インフルエンザ感染症

●定点報告数(下図)は2024年第8週、第9週、第10週における定点各医療機関からのインフルエンザ報告数をまとめたものです。

<市川保健所管内インフルエンザ発生状況>

	A型	B型	A+B型	AorB型※	臨床診断
報告数	23	632	0	0	12

※型非鑑別キット

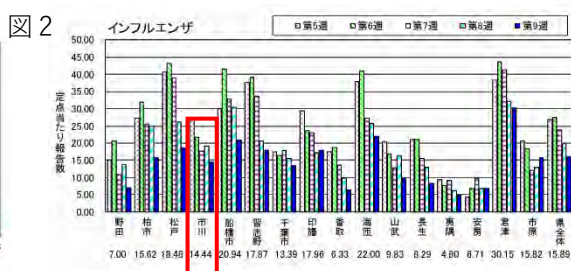
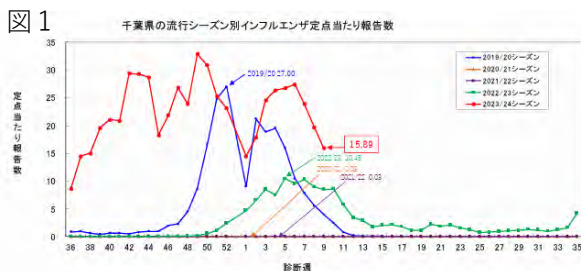
(医療機関からの型報告なく不明な267例を除く)

(人)



● 定点医療機関による感染者数の報告は減少傾向です。

第9週の県全体の定点当たり報告数は、15.89(人)でした(図1)。報告数の多かった地域は、保健所管内別で、君津 30.15(人)、海匝 22.00(人)、船橋市 20.94(人)となりました。管内の報告数は、14.44(人)となりました(図2)。



2024年第9週に県内で報告のあった2901例のうち、A型324例(11%)、B型2466例(85%)となっており、2024年第5週以降B型が多くなってきています。

インフルエンザの一般的な感染対策には、以下が挙げられます。

- ①手洗い、手指衛生 ②マスクの着用を含む咳エチケット（特に、通院時や高齢者施設を訪問するとき） ③室内の換気 ④適度な湿度の保持
 - <以下、必要に応じて>
 - ⑤人混みや繁華街へ外出を控える ⑥ワクチン接種
- ※施設内では流行時に健康観察の強化、手洗いの徹底、咳エチケットにご留意ください。

千葉県:インフルエンザ発生状況 <https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202409influenza.pdf>

4



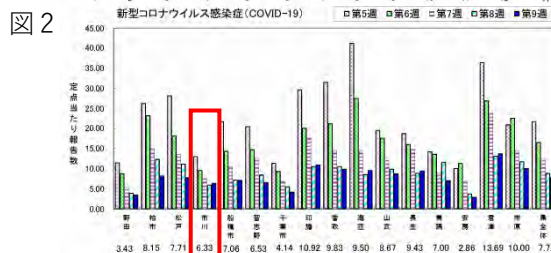
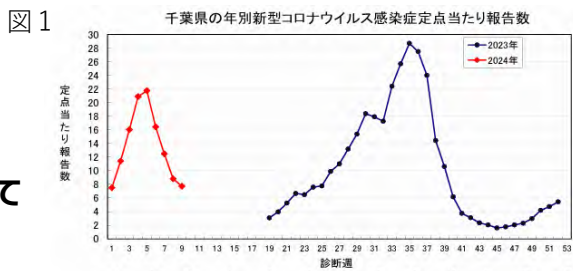
新型コロナウイルス感染症



● 定点医療機関による感染者数の報告は減少傾向です。

第9週の県全体の定点当たり報告数は、7.72(人)でした(図1)。報告数が多かった地域は、保健所管内別で君津 13.69(人)、印旛 10.92(人)、市原 10.00(人)となりました。

市川管内の報告数は、前週 5.89(人)より微増して 6.33(人)となっています(図2)。



新型コロナウイルス感染症の一般的な感染対策は、インフルエンザを予防する方法と同様になります。

【参考・引用】

千葉県:新型コロナ感染者の発生状況

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202409covid19.pdf>

首相官邸:感染症対策へのご協力をお願いします(手洗い・咳エチケット) <https://corona.go.jp/prevention/pdf/kansen.pdf>

5



お知らせ



いちうら感染症情報のアンケートへのご協力ありがとうございました。

以下アンケートの結果になります。

- 配信内容の活用方法は、「管内の感染症動向の把握」と「施設内の感染対策」が最も多かったです。その他の活用方法としていただいたご意見を一部ご紹介させていただきます。「嘱託産業医として担当の事業所で感染症に対する説明に利用している」「感染対策向上加算で連携している診療所・クリニックへ、感染症情報として情報共有。」「感染の動向などを医務室と共有。調整等で周辺地域の状況周知する材料として使用」等のご意見がありました。
- 今後求める配信内容は、「感染症の感染対策に必要な情報」「管内の感染症発生時動向グラフ」「厚生労働省感染症エクスプレス」の順に多かったです。
- 配信頻度は「月2回程度」が半数以上だったため、今後も第1週・第3週木曜日で配信を継続いたします。
- 配信内容の活用方法として、「保護者向けの提示板にて周知している」、「産業医として事業所の巡回の際に提供している」といった回答がありました。また、市川保健所ホームページにおいて、配信情報を更新しておりますので、積極的に活用していただければ幸いです。

これからも「いちうら感染症情報」をよろしくお願いたします。

最後に

- ・登録アドレスの廃止、変更等は下記アドレスまでご連絡をお願いします。
- ・いちうら感染症情報は、毎月第2・4木曜日を配信予定としていますが、事情により配信が遅れる場合があることをご了解ください。
- ・いちうら感染症情報の内容は主に公的機関の情報を基に作成し、できる限り最新で正確な情報発信に努めておりますが、各登録機関の責任においてご利用ください。
- ・また、メールの安全性についても千葉県の情報セキュリティ対策により安全性の確保を図っておりますが、各登録機関におかれましてもセキュリティ等の注意をお願いいたします。

【配信元】

千葉県市川健康福祉センター（市川保健所）

いちうら感染症情報

ichiurainf@pref.chiba.lg.jp



市川保健所管内の感染症発生動向（最近5週）

● 管内 ▲ 県全体 警報基準値 解除基準値
 マイコプラズマ肺炎とクラミジア肺炎は基幹定点のみCOVID-19、RSウイルス感染症、マイコプラズマ肺炎とクラミジア肺炎は警報基準値等の設定なし。

